

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	20-047	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Deaths and Years of Potential Life Lost From Excessive Alcohol Use - United States, 2011-2015 アルコール過剰摂取による死亡者数と潜在的損失年数 - 米国、2011-2015年		
執筆者		
Esser MB, Sherk A, Liu Y, Naimi TS, Stockwell T, Stahre M, Kanny D, Landen M, Saitz R, Brewer RD.		
掲載誌		
MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2020 Jul 31;69(30):981-987. doi:10.15585/mmwr.mm6930a1.		
キーワード		PMID
潜在的損失年数、米国、アルコール、レビュー		32730240
要 旨		
目的： アルコール過剰摂取は、米国における予防可能な死亡原因の一つである。米国におけるアルコール関連死亡者数と潜在的損失年数を推定し、戦略を講じることを目的とした。		
方法： 米国疾病予防管理センターは、Alcohol-Related Disease Impact (ARDI) オンラインアプリケーションを使用し、2011-2015年米国における自身の過剰飲酒による死亡（例：肝臓病）および他者の飲酒による死亡（例：アルコール関連事故で死亡した乗客）を含む、全国および州別の平均年間アルコール関連死と潜在的損失年数（YPLL）を推定した。		
結果： アルコール起因死は毎年平均 93,296 人、1 日あたりの死亡者 255 人、全体 YPLL270 万年、1 死亡あたり平均 YPLL29 年であった。アルコール関連死のうち、51,078 人（54.7%）が慢性疾患に起因したもので、52,361 人（56.0%）が 35～64 歳であった。人口 10 万人当たりの年齢調整済みアルコール関連死は、ニュージャージー州とニューヨーク州では 20.3 人、ニューメキシコ州では 52.3 人であった。人口 10 万人当たりの YPLL は、ニューヨーク州で 613.8 年、ニューメキシコ州で 1,651.7 年であった。		
結論： 過度の飲酒を防止するための効果的な戦略の実施（例：アルコール税の増税、酒店の数と集中度の規制）により、アルコールに起因する死亡と YPLL を減少させる必要がある。		